いっぽ だより

2019 年度　No. 5

はじめのいっぽ弥生
２０１９年８月３１日

ごあいさつ

今年の夏は、35℃以上の猛暑日が続き、健康維持に最新の注意を払う日々でしたが、子供たちは夏ならではの遊び、ザリガニ獲りにスプリンクラー、水浴、ウォータースライダー・・・などなど数えきれない遊びを満喫し、心も体も発散し 2 学期に突入、元気に過ごしております。皆々様にはお変わりありませんか？

いっぽだよりで紹介した、ミーちゃん、メーちゃんも、あの暑い中フーフー言いながら大好物の草を黙々と食べていますが、大好きなお友達やスタッフを見ると、♪メェ　メェ♪「こっちにおいで」と言っているかのように呼んでいます。

そんな中、毎日毎日　羊の毛づくろいに、ぬれタオルで体を拭いてあげていた〇〇ちゃんは、動物との関わりで随分自信をつけたと実感したある日「〇〇ちゃん２学期から学校に行けるね!!」とポンと背中を押したと時、“ウン!! “と返答し、なんとも嬉しい瞬間でした。
親、学校とも連携し２学期より通学、新たな環境で頑張っております。

代表　石橋　わか子

小中学生編

今年のいっぽ祭り

約３００枚描いた子どもの旗。
夢いっぱいのせたアーチ。
重厚感あふれるおみこし・・・
食券に輪投げ・かき氷屋さん等々、
前日までみんなで力を合わせ準備
をしたいっぽまつりでしたが・・・

当日（８月１０日）まさかの雨!!
職員７：00 集合、さてどうする？
Ａスタッフ：「今から準備して 10:00
には晴れるから、するよ～!!」と提
案され 8:00 まで晴れることを願い
空とニラメッコでしたが
雨、雨、雨　8:00 苦渋の決断で中
止と各関係者にその旨連絡。

時間はアッという間に過ぎ
10：00 土曜日利用のお友達が通常
通り来所するころには、雨も上が
りなんとも悔しい限りでした。
“できる事をしよう!!“と気持ち
を切り替え室内で**ミニいっぽ祭り**
を行いました。
限られた空間でのんびり、じっく
り、それぞれの役割を果たし、穏
やかな心地良い時間が過ぎ、経験
した事を、平日利用日のお友達へ
とつなげ、微笑ましいかかわりが
溢れておりました。

人生思い通りいかないこともある
と実感し、
「さてこれからどうする？」
学びの時間となりました。

言葉の責任

２学期がスタートし、子ども達一人ひとりの変化などを報告し合う時、
『〇〇君：「どうせ僕、バカだから漢字わからないの…」と話していた』と・・・
報告がありました。。
エッ!! ？？？　耳を疑う言葉でした。周囲の誰かが言っている？
何ってことだ。許せない!!　憤りを感じ悶々としています。

学校関係者の研修で“宮本　延春氏の講演会がありました。
（「オール１の落ちこぼれ、教師になる」の著者）

小学校から中学卒業まで、オール１　あまりの勉強のできなさに怒った父親は、ランドセル、教科書、リコーダー・・・学校で使う物全てを外に放り投げ、灯油をかけて燃やしたエピソードや、いじめに会っていた宮本氏は、とにかく目立たないように自分の存在を消したかったそうです。

中学卒業後は、建設会社の作業員として働き、母親を１６才、父親を１８才で亡くし、家にあったお金は１３円・・・
食べるものはアリとタンポポだったそうです。

そんな時、働き先の建設会社の社長に
「ご飯食べてるか？」…「ハイ、アリとタンポポ食べています。」。
「風呂入ってるか？」…「ハイ、雨降ったら雨水で洗ってます。」
社長が、「ご飯食べていけ!!」「風呂入っていけ!!」と・・・自分のことを気にかけてくれる人がいると知り、社長のおかげで「頑張って生きよう!!」と決心し、２２才より働きながら夜間定時制高校に通い、その後名古屋大学で学び、学校の先生となり現在は、国の教育改革機構の仕事の他、多方面で活躍中です。

みんな意味あって生まれてきた大切な　いのち
沢山の可能性を秘めています。
「どうせ　ぼく〇〇だから・・・」とあきらめないで沢山の生活体験を積み重ねていくと必ず自分の個性に気づき、たくましく生きる力が育まれていくと信じております。

幼児編

《お姉ちゃんと仲良し》

《ひろと君の誕生会》

《お落ち着いた食事タイム》

夏休み中は、程よい距離で、小・中学生との異年齢交流もでき、心地よい刺激を受けほんとうの家族のような光景が、たくさん見られました。

そんな中、4歳の男の子

「ぼく、大きくなったら、いっぽの先生になるんだ～!!　でも一日は疲れるから午後だけ働く・・・」との事、なんともほほえましい言葉ですネ。

午前中（未就学児）

幼児さんチームは

“　水遊び大好き!!　”

“　車が大好き!!　”

砂遊びに探索活動と

それぞれの大好きな遊びは違い、活動も個性豊かに日々過ごしております。

手指操作

枝豆もぎや、ピアノに新聞広告破りなど、指先をしっかり使い脳への心地よい刺激を遊びの中で獲得しています。

ままごとあそび

「赤いリンゴ３個お願いしまーす」

「ハイ、どーぞ・・・」など

友だちや大人との会話を楽しみながら、いろの識別、数の概念を学んでいます。

0.0.

これからも、教え込む療育ではなく

遊びを通し楽しみながら　認められ　ほめられ

自信につながる関わりを深めていきたいと思います。